

大場 正昭 議員

高齢社会を迎えて

問 市道・歩道・農道の除草、公園の管理の現状をどう捉えているか。

答 今後、高齢化等による担い手不足など、地域にとって負担が大きくなる状況であると認識している。地域の皆さんによる管理が難しくなってくるのが予想されることから、新たな担い手の発掘を含め、市と自治会、各種団体などの協働により適切な管理ができるよう検討していきたい。

問 耕作放棄地の現状をどう捉えているか。

答 平成23年度に170haであった耕作放棄地が、27年度に261haと、4年間で91haほど増えている。市では、農地の利用の意向を確認するための調査を行い、農地の集積や担い手の集約につなげている。今後も地域団体や農業委員、農協等と連携し、解消に努めていく。



自治会による河川愛護活動の様子

問 市の財源が限られていく中、市内業者にお願うだけでなく、自治会・部農会、団塊の世代やNPO、市民活動団体にその対応・対策をお願いする考えは。

答 今後、道路、河川、公園の維持管理を適切にしていくなため、庁内検討会を設置し、新たな担い手の発掘や、より多くの市民が参加しやすくなるよう、現行制度の見直しや新たな制度の創設に向けた検討をしていきたい。

鈴木 弘睦 議員

袋井市内中小企業の声

問 市内の空き店舗対策として新規事業者や店舗所有者への支援の考えはあるか。

答 空き店舗対策を市内全域のどこにでもとはいかないため、場所や形態など店舗の状況を検討し、駅前以外に広めることについて、よく内容を吟味したい。

認知症対策

問 専門医による認知症検査の自己負担額に対する補助への考えはあるか。

答 補助制度は早期診断を促進する意味では一つのきっかけになると考える。現段階では、状況を調査し、保健師等と相談をする上で、補助制度の創設が必要か、別の方法が良いのか、考えていきたい。

スポーツ振興への

行政の基本姿勢と役割

問 スポーツ少年団の運営や現状を市としてどのように捉えているか。

答 スポーツ少年団の活動は子どもたちの健全育成に大変重要な役割を果たしていると認識をしている。今後も引き続き募集チラシの配布など団員確保の支援に努めていきたい。



袋井大会で優勝したスポーツ少年団